

🌲 大杉谷国有林からの手紙 🌲

23通目 ～雨にも負けず、風にも負けず！～

早いもので、今年も11月、立冬の山茶始開（つばきはじめてひらく）の頃となりました。

標高1,000mを越える間伐の作業地では、朝の気温が5℃を下回り、冬の足音が直ぐそこまで近づいてきました。

大台林道が雪で閉ざされるまであと2ヶ月、シカの捕獲や間伐など予定した仕事をしっかりと仕上げたいと思います。

さて、今回は、大台林道を守る取組について、ご紹介します。



色づく山々を背に黙々と作業が進みます

大台林道は、紀北町海山から千尋峠を越え、大台町大杉谷国有林に至る、唯一のアクセス道です。今年も、シカの食害で裸になってしまった山に緑を戻すための広葉樹の植栽やシカの捕獲、健全な水源林を造るための間伐などの森林整備のほか、栗谷小屋や桃の木小屋への物資運搬など、重要な役割を担っています。

こんな大台林道ですが、日本有数の多雨の山岳地域を通るため、災害との戦いの歴史でもあります。記憶に新しいところでは、紀伊半島に大きな被害を与えた平成16年の台風21号です。この台風により、大台林道は、至る所で、土砂の崩壊や路肩決壊などが発生しました。その中で、最もダメージが大きかったのが、加茂助橋の流失です。

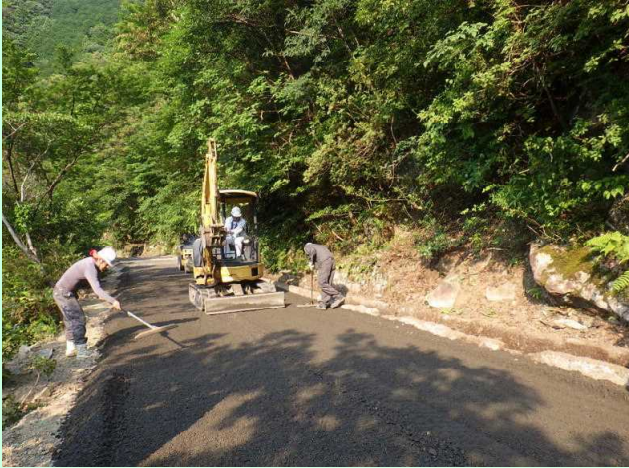
これにより、復旧までの8年間、森林整備はもちろんのこと、山小屋への物資運搬にも大きな影響を与えました。



平成24年に復旧した加茂助橋。

このように一度壊れてしまうと復旧するまでに多くの時間を要することから、私達は、日頃から林道の点検補修を行うとともに、林道改良工事を行っています。

今年度も、急勾配で路面の洗掘がしやすい箇所での舗装工事や山からの崩土でトラックが通りにくくなっていた箇所での崩土の除去を行っています。



路面洗堀を防ぐための舗装工事



通行を確保するための崩土除去

これらの工事も夏前には終わり、大台林道もだいぶ走りやすくなりましたが、今年は、9月に台風16号が、10月に台風21号、22号が連続で通過・接近しました。

これらの台風は、いずれも週末に来る予報でしたので、その前の数日間は、台風接近中の伐倒作業などの中止の打合せや水の流れやすい箇所での水切り、休暇中の連絡先の確認、通過後の林道点検の進め方の打合せなどに追われました。



台風直後、林道は深く掘れ川の様です



洗堀された箇所を埋めてトラックが通れるようにしています

台風21号が通過した23日は、国有林防災ボランティアの皆さんにもご協力頂き、被災状況の調査を行い、署への報告を行いました。

幸い、大杉谷国有林では、大規模な山地災害がありませんでしたが、記録的な豪雨により、林道の洗堀が進み、トラックが通行できない箇所が多く発生しましたので、現在、道路にできた溝を埋める作業を急ピッチで進めているところです。

これから年末にかけて、木材を積んだトラックが行き来することになりますが、安全に通行できるよう、これからも、林道の維持管理をしっかりとやっていきますので、皆様のご協力をお願いします。

(発行:三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官)